



国の始まり

日向を出てからどれぐらい時間が流れたでしょう。厳しくつらい旅でした。多くの戦いもありました。しかし、全ての困難を乗り越え、この国をまとめることが出来ました。

神倭伊波礼毘古命は畝傍山のふもとと橿原の地に都を開かれ、日本の国を治めることとなりました。

命は、「この国は、ご先祖の神々のお力を得てようやく平和になった。神々をお祀りし、人々が正しい心をもって幸せに暮らせるようにしよう。国中の人々が一つの家族のように仲良く暮らせることは、素晴らしいことではないか。」と国造りの理想を仰されました。

こうして命は我が国初めての「天皇」となられました。後にその功績を称え、「神武天皇」と申し上げるようになりました。

「建国記念の日」

神武天皇は西暦でいうと今から紀元前六百六十年の元日に橿原の宮で「天皇」となられました。この年を我が国では「皇紀元年」とし、今年が皇紀二六六五年となります。この日を今の太陽暦になおすと二月十一日になります。現在は、「建国を偲び、国を愛する心を養う祝日」として『建国記念の日』（以前は『紀元節』といいました）となっています。

なお、橿原の宮は今では橿原神宮となり、神武天皇をお祀りしています。

